

上総の大地をうるおし、今日も世界で活躍する井戸掘りの技術

かずさぼ ようぐ
上総掘りの用具



上総掘りとは、江戸時代に考案された^{こうあん}深井戸^{ふかいど}を掘る技術で、地上で組んだヤグラに固定されたハネ木の^{だんりよく}弾力を利用して掘り進み、地下水を^{じふん}自噴させる技術です。周准(周准)^{すす すえ ぐんぬかた}郡糠田村(現在の君津市糠田)^{いけだきゅうぞう ぶんか}の池田久蔵が文化14年(1817)に井戸掘り業を起して考案したといわれています。助手を務めていた孫の久吉^{きゅうきち}から縁戚の池田徳蔵等へ、徳蔵から石井峯次郎等へ^{いけだとくぞう}伝承されました。明治時代には用具の改良が重ねられ、竹ヒゴなどを利用した技術が確立されたとされています。今では、技術援助活動などによってアジアやアフリカを中心に井戸掘り技術が普及しています。

国指定重要文化財：重要有形民俗文化財（生産、生業に用いられるもの）

指定年月日：昭和35年6月9日・平成7年12月26日（追加）

所在地：木更津市太田 2-16-2 （木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：258点

公開・非公開の別：公開
